

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	三陸自然学校大槌
活動タイトル	被災地の希少野生動植物保全ビオトープを郷土の森として形作る
活動地域	大槌町郷土財活用湧水エリア



ミズアオイ池の攪乱作業 2023年4月23日



植栽作業 2023年6月17日



ミズアオイ観察会 2023年8月20日

【団体概要】

まだまだ始まったばかりの活動ですが、ミズアオイやイトヨのような極めて貴重な生物を保全するだけでなく、訪れる人に身近な郷土の自然として親しみを感じてもらい、一緒に活動に参加したくなるような場所に育てていきたいと思えます。

【活動の目的・目標】

大槌の財産でもある湧水を活用し、「郷土財活用湧水エリア」としてイトヨやミズアオイの保全を行う。その際、土壌が悪く、十分に水が行き届かない湿性園地の水分条件を改善すると共に、現地に適した木本植物を植栽することで、将来的には「郷土の森」として、水と、様々な動植物が共存する豊かなビオトープとして成立させる。

【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

植栽を行う湿性園地の土壌条件が悪く、さらに地下水位が高かったことから、施工時に植栽位置を変更したり、保水のための黒土やたい肥の増量など、状況を見ながらの対応が多く生じた。さらに、シカによる樹木の食害があり、それを防ぐための幹巻きや支柱掛けなど、専門的な技術を要する作業が多く発生した。また、炎天下の水やり作業などは大変であった。

【活動の内容・成果】

開催回数：植栽2回、シカ対策2回、観察会3回
木道補強1回、草刈り1回、水やり3回

参加人数：80人

達成率：70%

ミズアオイは開花し、イトヨの生息も順調である。説明会や観察会は盛況であった。木道の補強後のミズアオイ観察会は、安心して木道を利用することができた。ミズアオイの試食会など、文化的な取組も加え、多様な活動ができた。樹木の植栽は、シカによる食害や、夏の高温少雨があったものの、想定よりも枯損は少なく、今後の成長を期待したい。その中でも、生育の良い種、思わしくない種が生じており、今後植栽を行う際に役立つ知見も得ることができた。広く裸地で残された湿性園地の地下水位が高いことから、掘削による水域の創出を試みたい。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



ミズアオイ池の現地説明会

郷土財エリアに生息する絶滅危惧種の湿性植物やイトヨなど魚類についての保全活動の重要性や保全計画内容を説明。

開催日：2023. 4. 22



木道の補強

昨年の活動で作成した木道が、海風による鉄線の腐食が激しかったことから、ボルト止めに改善補強を行った。強度が増し、乗った際のたわみなどが改善され、イベント時の安全性が向上した。

開催日：2023. 6. 4



ミズアオイの試食会

郷土財エリア内の観察会の後、参加者でミズアオイの試食会を開催。参加者から弥生時代から食されてきたミズアオイの葉を食することができたと大好評。

開催日：2023. 8. 20



郷土財エリア内における環境学習会

大槌学園の児童によるイトヨや湿性植物の観察会を開催。併せて、イオン環境財団の助成により植栽した樹木の観察も行う。

開催日：2023. 8. 28